



THE ROTARY CLUB OF SADOWARA WEEKLYBULLETIN

佐土原ロータリークラブ週報

1998～99年度 会長賞

国際ロータリークラブ会長 ジェームスL.レイシー



ロータリーの綱領

ロータリーの綱領は、有益な事業の基盤として、奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し、特に次の各項を鼓吹、育成することにある：

- 第1 奉仕の機会として知り合いを広めること；
- 第2 事業および専門職務の道徳的水準を高めること；あらゆる有用な業務は尊敬されるべきであるという認識を深めること；そしてロータリアン各自が業務を通じて社会に奉仕するためにその業務を品位あらしめること；
- 第3 ロータリアンすべてがその個人生活、事業生活および社会生活に常に奉仕の理想を適用すること；
- 第4 奉仕の理想に結ばれた、事業と専門職務に携わる人の世界的親交によって国際間の理解と親善と平和を推進すること。

世界理解月間

第542回 平成11年 2月19日(金)

〔本日のプログラム〕

| | | | |
|--------------|---------|------------|--|
| 1. 点 | 鐘 | 次 回 予 告 | |
| 2. ロータリーソング | | ★ 2月26日(金) | |
| | 「奉仕の理想」 | 会員卓話 | |
| 3. 食 | 事 | 藤堂 孝一君 | |
| 4. 会 長 の 時 間 | | | |
| 5. 幹 事 報 告 | | ★ 3月 5日(金) | |
| 6. 委 員 会 報 告 | | 3月セレモニー | |
| 7. 創立記念講話 | | 会員卓話 | |
| | 山脇 忍君 | 徳丸 彰一君 | |
| 8. 点 | 鐘 | | |

佐土原ロータリークラブ

| | | | |
|-----|---------------------|-------|-------|
| 例会日 | 毎週金曜日(12:30~13:30) | 会 長 | 加藤 仙之 |
| 例会場 | 石崎浜荘 ☎0985-73-1913 | 副会長 | 福井 輝文 |
| 事務局 | 宮崎県佐土原町大字下那阿3887-17 | 幹 事 | 吉田康一郎 |
| | ☎880-0212 | 会 計 | 恒吉 正志 |
| | ☎及びFAX 0985-73-7170 | 会報委員長 | 垂水 敏雄 |

第541回例会記録 (1999. 2. 12)

☆会長の時間

会長 加藤 仙之君

今晚は、今日は第541回の夜間例会であります、私ごとで恐縮ですが、昼間は、父方では最後の叔母の葬儀でした。98歳でしたが一般的にはお祝いの年齢であります、家族にはここまで来たのだから100歳まで生きて欲しかったという思いがあったようであります。

ここ1～2週間は寒い日や暖かい日と寒暖の差が激しく年寄りには厳しいよう、老人の死亡記事が多いようであります。我々も、死亡記事が気になる年まわりになったのかなあー、いつお迎えに来てもおかしくない年になったのか、死についてちょっと考える今日この頃であります。

しかしまだまだ死にたくない遊びがしたい、ゴルフを腹一杯したい、なんと生臭い話であります。

先週は世界理解月間のお話をいたしました、今一番多いロータリー情報が世界社会奉仕に関する事ですのでロータリーの雑誌を読んで見れば、又書き損じハガキの回収のお願いをいたしました。

来週(1999. 2. 19)のプログラムは、ロータリー創立記念プログラムとなっております、担当はロータリー情報委員会になっております、ここは、山脇先生にお話を頂くとやう事に致しました。

☆幹事報告

幹事 吉田 康一郎 君

1. 例会変更通知

2月26日(金)「夜間懇親会」の為時間を18:00に変更

宮崎西RC

☆出席報告

委員長 宮原 建樹 君

| | | |
|----------|---|---------------|
| 会 員 | 数 | 25名 |
| 例会出席者数 | | 17名 |
| 出席率 | | 68% |
| マークアップ者数 | | 3名 |
| 修正出席率 | | 80% |
| 欠 席 者 名 | | 佐野、棚田、福井、富田、山 |

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

ハッピーボイス

結婚祝いを有り難うございました。
今年の記念日で丁度30回目になります。

正に「光陰矢の如し」であります。
しかし、あせらず、のんびり足を地に付けてまいりたいと思います。

正岡 文郁
洋子

誕生祝いを有り難うございました。
毎年いただく花々を眺めながら、又来年のこの日まで精出さねばと思うこの頃でございます。

正岡 洋子

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

☆会員卓話

伊東 忠寛 君

1. 最近、県内では飲酒運転に起因した交通死亡事故が多発しています。

その内容も「轢き逃げ死亡事故等」で極めて悪質な事故ばかりのようです。

1月3日高鍋署管内で発生した「警察官被害の轢き逃げ死亡事故」は、皆さんご存じの通り1月27日に容疑者が検挙されました。

お正月早々、約1ヵ月に及ぶ捜査のご苦勞に対して私は先輩として高鍋警察署長に慰勞の電話をしました。

ところが、その日の深夜、再び管内の川南町で轢き逃げ死亡事故が発生しました。

こうなりますと警察は威信にかけて犯人検挙と事故防止に全力を挙げることはいうまでもありません。

さいわい、2日後に検挙になりましたが、いずれも「飲酒運転」によるものでありました。

実は、今朝早くテレビのローカルニュースで知りましたが、佐土原町内で昨夜歩行者が飲酒運転の車に跳ねられて即死しています。

今日、この席でいろいろ話題になりましたが、亡くなったのは私たちの同級生の『K君』でした。

近所の友人『Hさん』と飲んで二人で帰宅途中、我が家の近くまできて事故に遭ったのですが、加害者は何と不幸にも『Hさん』の息子で、酔っ払って運転して帰宅中…とか、じつに痛ましい事故でした。

『K君』のご冥福をお祈りします。

ところで、交通事故が発生した場合は、まず被害者の救護措置、次に警察への通報…が義務付けられていますが、これは運転免許所持者でなくても世間一般の常識であります。

これを怠って現場から立ち去ることが「轢き逃げ・当て逃げ」になるわけで、自分が「飲酒している…」ことが負い目になって、さらに「だれにも判らないだろう…」という安易な気持ちで現場から逃走するケースがほとんどのようです。

しかし現代の捜査は、組織的・科学的にしかも粘りと緻密さで行われるだけに、一片の塗膜片・一筋のわだち痕・一つの部品や指紋・足跡・血液等々…の捜査資料から車両へ、犯人を…と、突き詰めていくことができます。

今回の高鍋の事案は、犯人の「似顔絵」が犯人像を特定するのに大変大きな役割を果たしたそうですが、

『証（物証）を得て人（犯人）を得る…』という捜査の大原則から慎重な捜査が行われたため時間がかかったそうです。いずれにしても「轢き逃げしても必ず検挙される…」それよりも「乗るなら飲むな、飲んだら飲むな…」をしっかり肝に銘じて交通安全の意識高揚に勤めたいものです。

また、運転者のみならず歩行者としても「飲んで酔っ払って道路を徘徊しない…」「我が身は自分自身でまもる…」ことにも心掛けなければなりません。

2月中は、『飲酒運転絶滅運動月間』になっています。

県民挙げてこの運動に参加することになりますが、一方取締も厳しくなります。

佐土原RCも社会奉仕活動の一環としてこの運動に参加しましょう。

2. 2月にはいり、社員や友人関係の結婚披露宴にお招きをうけまして、都合3回出席しました。

中には来賓祝辞などのご指名をいただきますが、大変光栄でもありますが祝辞の内容に苦勞することしばしばです。

しかし、お目出度いことですから自分の浅はかな人生経験から「体験ばなし」とか、先輩各位の祝辞から引用させてもらったりしてお話させていただいています。

私なりに『人の話を聞く…ことの大切さ』を実感して、これが一つの自己啓発であるとして実践しています。

祝辞の内容にはいろいろあり、人それぞれ特徴もあります。

先日の披露宴での例を二つ紹介してみます。

(1)『私はHが大好きであります。

皆さんはHと言いますと変？にお考えかも知れませんが、私は次の三つのHを大事にさせていただきたくて申し上げています。

まず「HOPE」のHで『希望』です。人生は夢と希望を持ってはつらつと生きてほしい。

次に「HELP」のHで『助け合い』の精神です。

お二人がお互いの立場を尊重しながら思いやりをもって助け合うことが大切です。

最後に「HUNGRY」のHで『空腹』ですが、これは「辛抱する」「耐える」ことを言います。

これからの人生は平坦なところばかりではありません。「二人でしっかり手を携えて『ハングリーの精神』

を持って頑張ってください」というお話でした。

(2)もう一つの言葉は、『夫婦円満を維持するために大事にするものは何かそれは「ボウ」と「ヤリ」であります。

夫婦喧嘩をする時もこの「ボウ」と「ヤリ」をしっかりとって相対峙しなさい。

「ボウ」は、「辛抱」のことです。「ヤリ」は、「思いやり」のことです。

この「ボウ」と「ヤリ」をしっかりとって、しかも、構えが「自然体であればどこからどんな問題が降りかかってきても素早く円満に対処することができます。』と言うお話でした。

いろいろな機会にいろいろな人の話を聞いて自分に受け入れてみる…大変大事なことだと思います。

したがって、ロータリーの卓話のなかでいろいろな人の話に耳を傾けることも極めて有意義なことである…と思います。